

平成 28 年度

事 業 計 画 書



学校法人 愛知県立学園

目 次

I はじめに

II 平成28年度基本方針

III 事業計画書

1. 学校法人	· · · · ·	P 2
2. 享栄高等学校	· · · · ·	P 2～5
3. 栄徳高等学校	· · · · ·	P 5～9
4. 享栄幼稚園	· · · · ·	P 10～11

平成 28 年度事業計画書

I. はじめに

私立学校を取り巻く経営環境は、経済状況や少子化による 18 歳人口の減少により、厳しさを増しております。

このような状況の中、建学の精神「誠実で信頼される人に」を大切にしながら社会に貢献できる人材を育成する教育を実践し、「選ばれる学校（園）」の実現を目指してまいりました。

昨年度は、予想を上回る生徒の皆様に入学いただき、教室等の整備とともに教職員の増員を図り、教育の質の維持・向上に取り組んでまいりました。

平成 28 年度は、下記基本方針を掲げ、全教職員一丸となって取組んでまいります。

II. 平成 28 年度基本方針

平成 28 年度は、平成 27 年度に引き続き「選ばれる学校（園）」の実現を目指し、教育力の強化、教育環境の充実に向け、諸施策を実行します。

また、中長期的な観点に立ち、教育環境充実のための人材・施設・設備に対する投資と将来に備えた内部留保をバランスよく行い、財務基盤の強化を図っていきます。

指標	平成28年度目標値	平成27年度目標値
①事業活動収支差額比率	6%以上	5%以上
②人件費比率	70%未満	70%未満
③管理経費比率	5%未満	5%未満
④人件費依存率	140%未満	140%未満
⑤基本金組入後収支比率	100%未満	100%未満
⑥引当特定資産繰入	学納金の5%以上	学納金の5%以上

III. 事業計画書

1. 学校法人

1. 財務

- (1) 中長期的な観点から経営数値目標を設定し、財務基盤の強化を推し進めます。
また、学園保有の土地・建物等資産の有効活用を図ります。
- (2) 入学生徒数増加に伴う受入態勢整備のため、人員・設備計画を作成します。
また、今後の生徒数の増減に対応できる、適切な人事および給与制度の構築を目指します。
- (3) 高校法人においても、平成28年度から会計基準が改正されることに伴い、適正な予算・決算業務を行っていきます。

2. 事務処理体制の改善

- (1) 事務処理方法を均一化することにより、事務の効率化を目指します。
- (2) 部門間の交流を活発にし、OJTによる事務処理能力の向上をめざします。

2. 享栄高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わる。」を基にして、生徒一人ひとりを大切にし、自己実現を図ることができる教育を展開する。

「面倒見の良い学校」として、きめ細かく丁寧な教育をする学校、夢と感動のある学校、地域に評価される学校の3要素を目指す。

そのため、普通科・商業科・機械科の3科の特性を生かした学習の推進と共に資格取得の徹底を図る。

- ①普通科：補習授業の内容を充実させ、生徒が主体的に考える内容を取り入れる。
- ②商業科：各種検定試験の合格者を増やすよう、教材を精選し学年をまたがった指導を行う。
- ③機械科：“ものづくり”を柱とした実験・実習等の体験的学習指導の充実を図るため教員の一致した指導の構築を図る。また、教育や命の大切さを伝える教育の一環として、応急手当の講習会を年間を通じて第3学年の各組に実施し(本校教員の応急手当普及員有資格者による)、正しい知識と技術を習得させる。

(2) 自己点検と評価

- ①年2回の研究授業週間と公開授業を実施する。
- ②定期考查と課題テストに加え業者テストを採用し、入学してから卒業するまでの生徒の基礎学力の経年推移を確認する。
- ③年5回の研修会を通して行うテーマごとの意見交換で自己点検を行う。
- ④外部研修会に教員を出席させる。
- ⑤生徒の学習実態調査、生徒・保護者・近隣住民による学校関係者調査を実施し、その結果を分析又は参考にして学校運営・学習指導の改善を図る。

(3) 学習支援の推進

- ①学習規律を徹底し、生徒に「わかる授業」を展開して学習実績を上げる。
- ②朝学習・補習・補充を行い、基礎学力の定着を図る。
- ③年5回の土曜セミナーを開催し、生徒個々が興味のある講座に参加し、または講座を企画することで生徒の自己実現の一助とする。
- ④特進、躍進、栄進文理(スポーツコース)は海外での修学旅行を実施することにより、習慣の違いや歴史を学び、人格形成を図る。

(4) 教育のレベルの向上

- ①毎週行う教科会議で、各担当の現状と問題点などの情報交換を行い授業にフィードバックする。
- ②研修係が主催する研修会に毎年のテーマを設定し、場合によっては外部講師を招いて研修・確認・評価を繰り返し行う。
- ③大学や専門学校で校外授業を実施することにより、より細かな専門分野知識を身に付ける。
- ④初任者、経験者Ⅰ、経験者Ⅱ、主任者の経験や職責に応じた研修を行う。

2. 生徒支援事業

(1) 生活の支援

- ①部活動や生徒会活動を積極的に推進し、その活動を通じて自主性・協調性を養うことで生徒間のリーダーを育成する。
- ②年度当初から個人面談と保護者会を実施し、生徒の諸問題を学級にとどまらず学年や部活動を通じての指導に反映させていく。
- ③相談室を設け、専属の相談員による生徒のカウンセリングを行い、保健室と担任及び学年と連携し、その問題解決につなげる。
- ④登校下校時の生徒の安全を確保するため、最寄り駅からの数箇所で挨拶の奨励と立ち番指導を行う。

- ⑤享栄同窓会とPTAからの奨学金制度の充実を図る。
- ⑥運動奨学生・学力奨学生・特別奨学生を認定し、模範となる生徒の増加を図る。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ①従来の保護者会と学級懇談会に加え、年度当初に保護者会を行う。そのことによつて担任と保護者の共通理解と協力関係を構築する。
- ②PTA活動を通じて、保護者が生徒との共有時間をもつことで学校教育への理解と支援の拡大を図る。
- ③「学習の手引」「進路の手引き」を印刷し、全生徒に配布する。

3. 教育環境の整備事業

- ① 情報実習室3のPC及び周辺機器の整備
- ② 体育館フロアのアクリル塗装を施し、体育授業および部活動中の生徒の怪我を防止する。
- ③ ソフトテニス部使用のマイクロバスを入れ替え、生徒送迎の安全確保に努める。
- ④ 管理棟と新教室棟の移動方法の改善
- ⑤ GHP機器(外機及び内機)の入替え

4. 地域連携・地域貢献事業

- ①年5回「土曜セミナー」を実施し、地域の方々に講師や受講生として企画・参加していただき交流を図る。
- ②地域の各種文化的行事に参加し、チアリーディング部や吹奏楽部の演技・演奏披露を推進する。
- ③生徒会による瑞穂区の「ヤングサポートーみづほ」に参加。
- ④昭和ライオンズクラブ主催の「街美ボラティア」に、部活動生徒を中心に教職員一体となって参加する。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ①夏休みに行われる2回の体験入学会と10月下旬から行われる5回の学校説明会は、学校に触れるよい機会なのでその参加者の増加を図る。
- ②秋の私学協会主催の「私学展」で、本校ブースへの訪問者数の増加を図るとともに、学校案内やポスター等での募集強化を行う。
- ③入試広報室員の担当地区で中学校長による連絡会を主催し、中学校の意見の集約と生徒たちの現況報告を行う。
- ④募集要項の印刷製本。

(2) 関係各所との連携

- ①年間計画を作成し、中学校訪問を実施する。また、新入生はもとより2・3年生の近況報告等も行うことで情報交換する。
- ②各地域の私塾に出身生徒が資料持参で訪問し、広報活動を含めた募集活動を展開する。
- ③警察署・消防署・区役所等への挨拶をし、地域との連携を強化する。
- ④就職先及び進学先の範囲拡大を目指し、情報収集や連携を強化する。

6. 進路支援事業

- ①「進路の手引き」を製本し、支援体制を強化する。
- ②推薦入試枠等の拡大のため、大学訪問を強化する。
- ③面接指導や論文指導等を教職員で分担し、マナーと規律を学習させる。
- ④インターンシップを段階的に実施し、職業観の育成、積極的な進路選択による学習意欲の向上、社会人としてのマナーの習得を図る。
- ⑤ハローワークや企業の協力を得て、進路説明会等を開催する。

7. その他

- ①部活動の強化をはかり、スポーツを通じて校名の浸透を促す。
- ②通学経路である地下鉄構内の案内板や車両内放送等を利用して、本校の認知度を高める。

3. 栄徳高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ①愛知県栄学園の建学の精神である「誠実で信頼される人に」を校訓として、国際社会で活躍する生徒の育成を目指す。
《目指す学校像》
 - ・夢を実現させる学校
 - ・豊かな人間性を培う学校
 - ・健康な心身を育む文武両道の進学校
- ②常に明確な目標をもち、真剣に事に当たる習慣をつけ、豊かな人間性、強い気力・体力、幅広い知性を身につけさせる。
- ③具体的な目標（栄徳五訓）を掲げ教育活動を実践し、生徒の育成に努める。
《栄徳五訓》
《目指す生徒像》

- 一 常に目的意識を持とう。 · 自分の夢に向かって邁進する生徒
 - 一 感謝の気持ちをこめて挨拶しよう。 · 互いを認め、尊重し合う事の出来る生徒
 - 一 学習、スポーツに頑張ろう。 · 学習・スポーツに頑張る日に焼けた秀才
 - 一 責任ある行動をとろう。 · 何事にも真剣に事に当たる生徒
 - 一 栄徳生としてプライドを持とう。 · 自分の考えを持ち、表現できる生徒
- ④ P D C A サイクル [Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Action (改善)] を機能させ、 次回の効果的な実践につなげる。
- ⑤ 平成 28 年度入学生よりコース・クラスを刷新して、新たな栄徳教育システムを構築する。
(Super 文理コース : Super 文理クラス、総合進学コース : 選抜クラスと進学クラス)
コース名称の変更とともに教育内容のグレードアップを図り、精選された教材を準備し計画的な学習活動を展開する中で、習熟度別のきめ細かな学習指導を実践し、進路希望の実現を図る。
- ⑥ 平成 29 年度、 2 年生から新たに開設する国際言語コースの準備を進める。
- ⑦ 平成 28 年度は教員数を増員し、教育条件を整備する。また、図書館司書を配置し、読書習慣の向上を目指す。

(2) 自己点検と評価

- ① 保護者 (P T A 役員会、専門委員会、保護者会等) の意見や地域からの要請に耳を傾け、生徒による「学校アンケート調査」、更には教職員による自己点検と学校評価を実施し、次年度の学校経営に反映させる。
- ② 校務分掌組織ごとに明確な目標をもって業務を遂行し、年 2 回の定期的な振り返りを基に調整改善を図る。各分掌の重点目標を推進し、その取り組みと評価を前後期に検証する。

(3) 学習支援の推進

- ① 落ち着いた活気のある授業を展開し、生徒一人ひとりの理解度の向上を目指す。
- ② 生徒一人ひとりを大切に育て、各自が夢と目標を持ち進路希望の実現を図る。
- ③ 学力不振の生徒に対しては、定期考查や外部模試の結果に基づき「基礎力強化学習」を定期的に実施し、基礎学力の向上を図る。
- ④ 各コースに応じた教育課程の編成と計画的な補習を通して、学力の向上を図る。
・ 平成 27 年度は 1 年選抜クラスを 1 クラス増やし、3 クラス編成で展開してきた。
平成 28 年度は 2 年文理選抜クラス Z を 1 クラス増やし、2 クラス編成にして学力向上に努める。
- ⑤ 1 年選抜クラスの数学 I と英語表現 I の授業は同時開講の習熟度別授業を展開し、早期から国公立大学受験者の増員を図る。

⑥全校コンテスト（英単語力、計算力、漢字力等）を計画し、スキル的学力の向上を図る。

⑦5教科の成績に関する個人カルテを作成して学力の変化を捉えた適切な指導を行う。また、習熟度別授業の有効性については検証し、次年度に繋げる。

（4）教育のレベルの向上

①現職教育を通して正しい教育観を身につけ、教員としての資質の向上を図る。

②初任者研修会を毎週実施し、教師力の向上に努める。

③経験者教員研修会を月2回程度実施し、更なる教師力の向上に努める。

④教育力向上のため研究授業を計画的に実施して、教師相互の研鑽に努める。

⑤教育課題に応じた研修会を開催し、教師一人ひとりの資質の向上を図る。

⑥学習効果を高めるため、各教科でアクティブラーニング等の指導法を研究し、魅力ある分かる授業の展開を図る。

⑦英語教員の資格検定試験の受験を推進すると同時に、奨学制度を新設する。

⑧学外での研修会等に参加し教育力向上に努める。

⑨学校視察を積極的に行い、常なる向上を目指す。

2. 生徒支援事業

（1）生活の支援

①時代の要請、中学校の要求に応える「新しい学校づくり」に向けての検討委員会を設置する。

②きめ細かい生活指導を通じて、けじめのある躾教育をする。特に、自律心を育む教育を推進する。

③安全で安心して通える学校であるとともに、県内で最もマナーの良い学校を目指す。

④“いじめ”的防止、早期発見のための措置、相談・支援等を整備して“いじめ”に対する対策を推進する。

⑤交通安全指導の徹底、サイバー犯罪防止、薬物乱用防止等、学内だけでなく社会生活を営む上での安全指導にも取り組む。

⑥カウンセラーを配置して、生徒が気兼ねなく相談できる環境を整え、生徒の心理的な発達を援助する。

⑦生徒一人ひとりを大切にし、退学者をなくすよう努力する。

（2）保護者の方々との協力関係の構築

①PTA活動・保護者会・進路説明会・学校行事等を通して積極的に参加できる機会を設け、協力関係の構築を図る。

- ②PTA委員会活動(広報専門委員会、生活指導専門委員会、クラブ活動専門委員会)を通して保護者の方々との連携を図る。
- ③公開授業や学級懇談を通して、保護者の方々の本校教育活動に対する理解を深める。
- ④保護者宛文書の配布のほかに、メール配信を利用して保護者との連絡の徹底に努める。

3. 教育環境の整備事業

- ①プール跡地に校舎(6教室)を増築して、学習環境の改善を図る。
- ②タブレットやスマホ等のICTを活用した学習サポート体制の構築をする。
- ③入学から卒業までの生徒の出席管理・成績管理・各種証明書発行等ができる校務システムを導入して、データ処理の効率化、迅速化を図り、指導に役立てる。
- ④中・長期的視野で清掃等の行き届いたきれいな校舎にすることを目標に、教育環境の更なる充実と明るく活力ある学校を目指す。

4. 地域連携・地域貢献事業

- ①医療センターと連携し、救命講習(心肺蘇生法の習得とAEDの取扱い)を実施する。
- ②クリーンアップキャンペーン(清掃奉仕活動)を通してその意義を理解させ、奉仕の精神を育む。
- ③地域の社会福祉協力校として、地元と連携して地域主体の諸活動に積極的に参加する。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ①新しい学校案内を作成し、広く情報を発信する。
- ②生徒募集の目標数値を明確にする。特に特進の推薦者、一般の受験者数の増大を図る。
- ③学園祭等の行事に近隣の中学生を招待し、開かれた学校をアピールする。パワーポイントの有効利用や学校紹介ビデオ等の作成をおこして、学校見学会等において本校の魅力を積極的にピアールする。
- ④学校行事や各説明会に参加した生徒への事後コンタクトを大切にし、面倒見の良さをアピールし学校への信頼度を高める。
- ⑤在校生の満足度を高めることが生徒募集につながるとの観点から、生徒へのアンケート調査を実施し、調査結果をふまえて学校生活が快適に過ごせるよう学校環境整備に努める。
- ⑥平成28年度は広報職員を増員して、生徒募集の強化を図る。

(2) 関係各所との連携

- ①新入生による母校への中学校訪問及び3年生による大学合格報告を実施し、出身中学校との連携を強化する。
- ②学校説明会（中学校教員・塾講師対象）では学校の情報や授業を公開し、理解が深まるよう努める。
- ③中学校、塾を訪問して出身生徒の学校生活や学習状況を伝え、本校のきめ細やかな指導の理解を求める。
- ④学校行事等を新聞等に積極的にアピールして宣伝に努める。
- ⑤地域の主催行事に積極的に参加して本校をピアールする。

6. 進路支援事業

（1）進路指導の充実

- ①自己実現のための進路観や職業観を育成し、進学・就職指導を具体的に推し進めるための「進路カリキュラム」を作成する。
- ②インターンシップを導入して生徒に社会との接点を持たせ、職業を体験することで社会に対するものの見方を養い、進路意識の向上、学習意欲の向上を図る。
- ③国公立大学25名、難関私立大学30名を目標にした信頼度の高い進学指導体制を確立する。奨学金制度の検討も含め、進学実績の向上を目指す。
- ④GTZ（学力到達ゾーン）を利用し、進学に対する意識高揚を図る。
- ⑤進路行事を利用して進学に対するモチベーションを高める。
- ⑥「夢手帳」の効果的な活用を検討し、教務部・学年会と連携して受験学力の養成に努める。
- ⑦大学との高大連携プログラムを開催して、大学の教育研究に触れる機会を促進し、大学で学ぶ意義の認識、進学意欲の高揚を図り、進学指導・学習指導に役立てる。

（2）進路情報の共有化

- ①学年ごとの進路ガイダンスを実施し、生徒に的確な進路情報を提供する。
- ②保護者を対象とした進路説明会を実施し、進路情報を提供するとともに家庭での進学支援を求める。
- ③進路実現にむけて、担任・教科担任や学年会と連携して進路指導を推し進める。

7. その他

「栄徳イノベーション」を基に、本校が目指す学校像・生徒像を明確にして、社会や時代の要請、地域や中学校の要求に応える「新しい学校づくり」に積極的に取り組み、信頼され魅力ある学校を目指す。

4. 享栄幼稚園

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「誠実で信頼される園に」を建学の精神に掲げている本園は、この理念に基づく教育方針、重点目標を発達段階に応じて取り組んでいく。その中で、集中力、理解力、表現力、コミュニケーション力、体力の5つの力を育てるため、計画的な指導をする。また、子どもたち、保護者、地域から信頼、親しまれるよう全教職員の資質向上のため日々研鑽努力する。

(2) 自己点検と評価

評価項目（チェックリスト）に沿って学期毎に自己点検、自己評価を行い教師自らが客観的に指導や関わりを省みる。園の目の前の子どもの姿に学び、同僚の仕事や言葉に耳を傾ける、保護者や地域の人と共に子どもたちを見つめ、そして保育環境や保育教材、素材についても工夫しながら学び続けていく。

(3) 学習支援の推進

漢字絵本などの蔵書を増やし、本にふれる機会を増やす。

(4) 教育のレベルの向上

教職員自身が最大の教育環境であると一人ひとりが自覚し日々の研鑽に努める。
外部講師による園内研修を行う。外部研修や他園との合同研修に参加する。

2. 園児支援事業

(1) 生活の支援

子どもの家庭環境、生活環境を把握し、一人ひとりの理解を深める。特別支援の必要性がある場合は園医や心理学博士と相談し支援をする。育児相談やカウンセリングが受けられる体制はいつでもとれるようにする。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

園庭西側に設置した多目的室を活用し、母の会との積極的な交流をもつ。
園だより、クラスだより等の園からの発信ができるだけ多くして、園の教育活動と子どもの様子を詳しく伝える。
母の会が行事に参加し、援助することにより、園理解に繋げる。
ホームページのトピックに写真を掲載し、文字だけではなく、視覚的にも伝える努力する。

3. 教育環境の整備事業

園舎内の蛍光灯設備が老朽化しているため、取替え作業を行う。

園舎内の放送施設の整備。

4. 地域連携・地域貢献事業

12月に行われるバザーを通じて保護者や近隣住民とのふれあいの場を作る

5. 園児募集・入試に係る事業

(1) 園児募集活動の強化

6月から8月にかけて10回程度見学会・説明会を行い次年度園児募集を計る。10月受付とする。7月には「みんなの広場」を開催し教職員が未就園児といろいろなコーナーで楽しく過ごし、幼稚園や教職員に親しむ1日にする。また、保護者に対しては相談コーナーを設け質問や悩みに答える。募集に関して現在最も大切なのは、2歳児のプレ教室であるため、園児募集は1年前の未就園児教室募集が重要である。9月に見学会・説明会を行い11月受付とする。

(2) 関係各所との連携

問題を抱えている子どもが増えていることから、問題に応じて、専門家の意見を聞く。園医、心理学博士、児童相談所等との連携を密にして、子どもの安全・幸せの確保に務めていく。

6. 進路支援事業

幼・保・小連携の推進のための支援のあり方を検討する。

- ①幼・保・小連絡会会議にて入学前に個々に育ちの様子伝えていき、学校からの話も伺い就学の準備をする。
- ②地域の小学校を訪問し、遊びに行き学校に親しみを持ち、不安のないようにしていく。幼・保・小連携の推進のための支援のあり方を検討する。

7. その他

創立70周年を迎える平成31年をめどに、耐震対策を施した園舎の増改築に向け費用の積立を行う。また、新生なる享栄幼稚園の教育ビジョンを構築していく。

以上